

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO



創 立：1980年(昭和55年)1月10日
 会 長：泉 憲一
 幹 事：亀井 直人
 クラブ委員長：山回 哲司
 例 会 日：毎週木曜日PM12:30～
 会 場：ヒルトン名古屋

事 務 局：460-0008
 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
 T E L：052-211-3803
 F A X：052-211-2623
 M A I L：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
 U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

第1637回例会

～世界理解月間～
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2014年2月27日(木) 雨 第33回

司 会：広瀬弘幸会場委員
 齊 唱：「日も風も星も」

副会長挨拶

長瀬憲八郎副会長

私はこれまでに、大きな病気を2つ患いました。1つは、1974年2月に肋膜炎をオスロで患ったことです。このことは、以前インシエーションスピーチでお話しましたので、ご存知の方もいらっしゃると思います。もう1つは、2011年2月に脳梗塞を患いました。2ヶ月も入院することになりましたが、本当はもっと軽くすんだはずだと今も思います。



倒れたわけでも、なにかの症状があったわけでもなく、ただ夕食の時お酒を飲んでいて、湯呑みをうまく置けなかったのです。一度だけなら何とも思わなかったのですが、二度、三度と倒し、ついに女房が「おかしいから救急車を呼んで病院へ行こう」と言い出しました。しかし私は「意地でも行くか」と反発して、喧嘩になりました。認めたくなかったので動きませんでした。女房が近くに住む息子夫婦に連絡すると、すぐに仲裁に駆けつけてくれて、結局その日は病院には行かずに、そのまま寝ることになりました。でも本当は「るれつ」は回らず、くわえタバコは膝の上でくすぶっている状態では、病院に行くのが本当でした。

翌朝病院に連れて行かれましたが、昨晚から既に10時間以上病院に行くのが遅れたことで、女房と息子は医者から2～3日が峠と言われたそうです。実は私の母親も脳梗塞で、病院に行くのが遅れたため、3年間植物人間状態で亡くなっています。喧嘩なんかせずに、早く救急車で運ばれていたら良かったのにと今は思います。

前日、会社にいる時もある社員から「るれつが回っていませんよ」と言われていました。その社員の父親は、2回脳梗塞で運ばれており、「それと同じ状態でした」と言われても動かなかった自分が情けなくなりました。

早く病院に行っていれば、2ヶ月も入院をせず薬だけで済んだと思います。名古屋瑞穂RCには、主治医の田中先生もいるのに、なんで相談しなかったのかと思うと残念です。先生でなくても、瑞穂RCメンバーの中には多少なりとも経験された方がいらっしゃるの、相談すればすぐにアドバイスをもらえたのではないかと思います。

ロータリーでは日頃から「親睦」が大事だと習っているのに、もっともっと勉強しなくてはと、本当に反省しております。

ニコボックス

山本英雄ニコボックス委員

・本多さん、先日の叙勲記念祝賀会及びゴルフコンペには多数のご参加で盛大に開催されました事、心からお慶び申し上げます。貴君の偉大さに改めて敬意を表します。益々のご活躍をお祈りいたします。

- ・ 野崎 洋二さん
- ・ 今日卓話を行います。気持ちは、メランコリー。 市岡 正蔵さん
- ・ 辺ちゃん(渡辺さん)が鎮座していましたから。 松波 恒彦さん

- ・ グラムに行ってきました。暖かくて快適でした、皆様にお世話になりました。 内田 久利さん
- ・ 例会欠席が続きました。 田中 隆義さん
- ・ 今日、雨で良かった、もう雪はこりこりです。早く春が来てほしいです。 酒井 俊光さん
- ・ 扁桃炎が悪化して一週間入院してきました。皆様もお気を付けて下さい。 大嶽 達郎さん
- ・ 久しぶりのホーム例会出席です。お休みをすませませんでした。 田中 宏さん

出席報告

山本英雄出席委員

会員62名 出席42名 (出席計算人数44名)

出席率 82.3%

2月20日は補填により 92.5%

幹事報告

亀井直人幹事

・次週3月6日(木)13:40より、ヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第5回CA・第9回理事会を行います。

卓話

市岡正蔵さん

他クラブを訪問して

皆さんこんにちは市岡です。本日は、貴重な機会を与えて頂いて、ありがとうございます。最初に名古屋瑞穂RC入会してからの遍歴をお話してから今日の本題に入りたいと思います。

私は松波さん、西本さんの推薦を受け、稲葉さん、守谷さんの会社訪問面接を受け、入会させて頂きました。入会当時の会長は遠山さんでした。大きな声で堂々と、毎週会長挨拶されている姿を拝見し、本当に務まるのか、大変不安な毎日でした。あれからはや7年となります。

さて人生にはしばしば思いがけないことがおこります。会社を創業し、結婚し、子供にも恵まれ、大きな病気にもならず、生まれてこのかた、ごく普通に人生を歩いてきました。そして名古屋瑞穂RCにも入会させて頂きました。毎年会社で続けていた健康診断も特に異常はなく、健康にはそれなりの自信をもって生きてきました。そんなある日突然、深い落とし穴に落ちました。その時、様々な思いが走馬灯のようにめぐりました。

たまたま名古屋瑞穂RC例会の席で隣同士になった岩本成郎さんに、最近毎朝決まって腹痛に悩まされていることを話しました。最初に、スギ薬局で買った胃腸薬はまったく聞かなかったこと、そして近所のクリニックで診察し、「一週間薬を出しますからしばらく様子を見て下さい」と返事をもらったこと、この薬も全くきかなかったこと、岩本さんは真剣に話を聞いて下さいました。セカンドオピニオンとして違う病院でも診てもらおう事も必要ということで、岩本さんは迅速にかかりつけの病院までつれて行って下さり、診察がおわるまで、まるで親のように付き添って下さいました。

その病院では初診で、悪性リンパ腫又は、悪性腫瘍があると診断されました。診察時間約10分で胃癌と宣告されました。私にとってはまったく予想もしていなかった結果で、相当のショックを受けました。しかし、その時の先生の対応は実に親切で、本当に手際

よく検査をして頂きました。大変忙しい状況の中、早朝の営業時間外に時間を作ってもらっていました。この間、一週間の出来事です。あとで解ったことですが、先生はすぐ他の臓器への転移を調べていたようです。それだけ緊急だったかもしれません。この対応は、当然若本成郎さんのご尽力があったことと感謝しています。近所のクリニックでの診察結果を待っていたら、手遅れになっていたかもしれません。命の恩人です。

長い間続いていた健康診断の結果を鵜呑みにし、それが自信につながっていたことも事実です。癌がこの大きさになるまで少なくとも5年は経っている、「どうして見つけてくれなかったのだろうか？わからなかったのだろうか？」。その時ほど、毎年の健康診断の結果に不信感をもったことは有りませんでした。それでも多少の危機管理ができていれば、その落とし穴をうまくよけることが出来たでしょう。この危機管理の甘さが落とし穴にはまってしまった原因です。自業自得ということでしょうか。今では、さまざまな人の力をかりて暗い深い穴から、這い上がることができました。とりわけ名古屋瑞穂RCの皆さんの見舞い、励ましの言葉、松波恒彦さんを始め病院関係者の心あるサポートが、本当に心の支えに成りました。

入院し、家内と一緒に担当医よりいろいろ説明をうけた時、その説明にサインする時、不安でいっぱいでした。そんな中で今、一番印象に残っていることは、いよいよ明日は手術する日、それに伴い手術前夜に麻酔を打つ為の練習をしたことです。前日の夜、明日実際に麻酔を打ってくれる先生が病室に来ました。先生は帰る時間だったのか私服に着替えての訪問で、少し濃い目の化粧をした綺麗な女医さんでした。脊髄に全身麻酔を打つという事で、猫の様に丸くなる練習を何回かしました。明日は朝8:30分より手術、約4~5時間かかる。もう逃げることは出来ない、がんばらなければいけないと思いつ寝しました。当日、覚悟を決めて看護士さんに付き添われ手術室に入りました。主治医の先生と挨拶をかわし、すぐ麻酔をうつ時間がきました。非常に緊張して表情の無い私に、麻酔の先生から一言「今日私は化粧していないからひょっとして、今あなたは私が誰か解らないでしょ。」冗談ばく問いかけてくれました。確かに今日の服装は私服ではなく、薄いグリーン色の手術着でした。化粧もしていないし、大きなマスクをしている。やっと状況が把握できました。その先生の一言で、随分緊張がとけました。そして練習した通りに猫の様に丸くなり、精髄に麻酔が注入されました。先生との会話の途中まもなく、息を吸おうとしても空気が入ってこない感覚がして、意識が遠退いて行きました。私はスキューバダイビングの経験もあり、潜っていて酸素ボンベが空になった時の状態に良く似た、そんな感覚でした。手術中のことは当然ですが、全く覚えていません。手術が無事終わって病室に戻り、意識が戻ったときは全身チューブでつながっていました。検査入院を含め約3週間で予定通り退院しました。現在2年と7ヶ月たち、皆さんから元気になったと言われるようになりました。私自身も普段と変わらない程回復したと思っています。

健康でいることは、常に危機意識を持ち努力していることの証明です。高い席から誠に恐縮ですが、この場をお借りいたしまして、皆さんにお礼を申し上げたいと思います。皆さんのお力で生還出来ました。名古屋瑞穂RCに入って助かったと思っています。そしてこの入院を通じて健康であることの大切さを初めて「気づかされ」ました。またこれからは少しでも皆さんに恩返しをして行きたいと考えています。本当に感謝申し上げます。

次に今日の本題に入りたいと思います。今日は「他クラブを訪問して」というテーマでの卓話です。このテーマはR情報・研修委員長の天野正明氏の提案です。そしてターゲットは中堅会員。中堅会員の研修を行うことが目的のようです。本来は海外のRCを見るというテーマでしたが、名古屋瑞穂RC姉妹提携クラブ以外に海外クラブを訪問したことがありません。従って「他クラブを訪問して」というテーマに変更しました。とは言っても他クラブを訪問していないことに気付いたので非常に泥縄的ではありますが、先日2クラブ訪問して参りましたので報告させていただきます。

①『恵那ロータリークラブ』

私の出身が岐阜県恵那市ということもあり、最初の他クラブ訪問は恵那ロータリークラブにしました。顔見知りや知り合いがいるのでは、

という期待感や安心感があり、また天野委員長の助言もあり選択いたしました。

このクラブの概要を説明します。スポンサークラブは中津川RCで1961年(昭和36年)9月2日に設立されました。会員総数は44名で、女性のメンバーも含まれています。例会日は毎週火曜日の12:30から13:30。会場は倶楽部いち川というところで開催されています。

こちらの例会は、受付を済ませ、司会進行は幹事が行い12:30に会長が点鐘。この日のロータリーソングは第一週のせいいか、国歌斉唱・続いて「奉仕の理想」「四つのテスト」を斉唱しました。そして、ビジター・ゲストの紹介が幹事からあります。この間約10分間。さらに、あらかじめテーブルには食事の準備がされており、歓談しながら食事、そして会長の時間として会長からの挨拶がありました。引き続き祝福・出席報告、ニコニコ発表(ニコボックス)・幹事報告・委員会報告が終わり、会員の広場という時間もありました。私はここで少し名古屋瑞穂RCの紹介もさせて頂きました。この間約20分間。最後は卓話の時間があり、閉会点鐘です。名古屋瑞穂RCとすこし違うなと思ったことは、祝福報告でした。名古屋瑞穂RCは、会員のみなさんの誕生日の祝福だけですが、恵那RCは、会員のみなさんの誕生日はもちろん。会員の奥さんの誕生日も祝福します。また同時に結婚記念の祝福もありました。そして祝福された方、全員に、金一封が出ていました。

②『戸田ロータリークラブ』

戸田ロータリークラブの所在地は埼玉県戸田市です。戸田RCの名嘉山博喜さんと交流があることから、名嘉山さんに無理を言って、メイクアップを兼ねて戸田RC第2400回例会に出席して参りました。

このクラブの概要を説明いたします。スポンサークラブは川口RCで1964年(昭和39年)5月25日チャーターメンバー31名で設立されました。会員総数は55名で、女性メンバーもいました。例会日は毎週月曜日の12:30から13:30です。会場は戸田市文化会館という所です。姉妹クラブとして、韓国、台湾、オーストリアのRCと三年に一度締結されているようです。

今年は設立50周年の節目の年、記念事業として「1000人の献血」を企画されています。当日は日本赤十字社より献血車8台で1000人の献血に対応をするとのことでした。会員総数55名ですから、会員の皆様は相当努力されていることと思います。

例会の流れとしましては、12:30点鐘ですが、12:00にはすでに食事の準備がされており、皆さん食事をしながら歓談。各テーブルに置いてあるニコボックス用紙に当日の出席人数64名全員が記入していました。当然私もつられて記入しました。この30分は名古屋瑞穂RCには無い時間でした。12:30開会点鐘。進行状況は、起立しロータリーソング「我等の生業」、今日の行事で2月の誕生日祝いとお客様紹介、会長挨拶、幹事報告、委員会報告、その日のお客様の時間があり、私はここでも少し名古屋瑞穂RCの紹介をさせていただきました。そして、卓話、閉会点鐘。食事の時間を除けば、全体としては、瑞穂RCと変わりませんでした。

私は松波さん、西本さんの推薦を受けてロータリークラブに入会してからは7年経ちました。今回このテーマで私の感じたことは、他クラブ例会に出席せざるを得ない状況に追い込まれて、そこで出会ったロータリアンに親切に迎えられること。例会を通じて、各クラブの様々な考え方、進め方を知り、そして交流が出来ました。こういう機会を頂きました天野委員長に感謝いたします。ありがとうございました。

例会のご案内

■今週の行事 3月6日(木)

卓話講師：白鳥山法持寺住職
愛知学院大学教授 川口高風さん
テ－マ：志気には老少なし

■次週の卓話 3月13日(木)

会員卓話：松井善則さん
テ－マ：空手道とは

■次々週卓話 3月20日(木)

卓話講師：名古屋市立西部医療センター
陽子線治療センター運営企画室長
辻俊司さん
テ－マ：陽子線治療をご存じですか